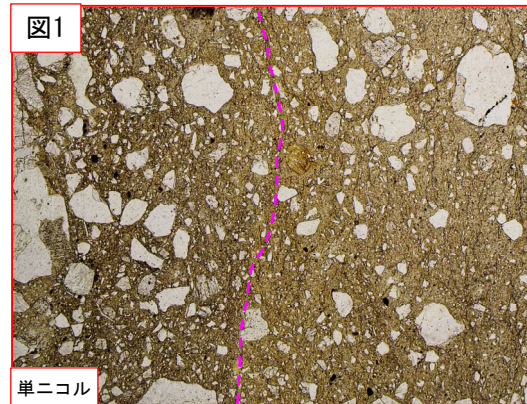
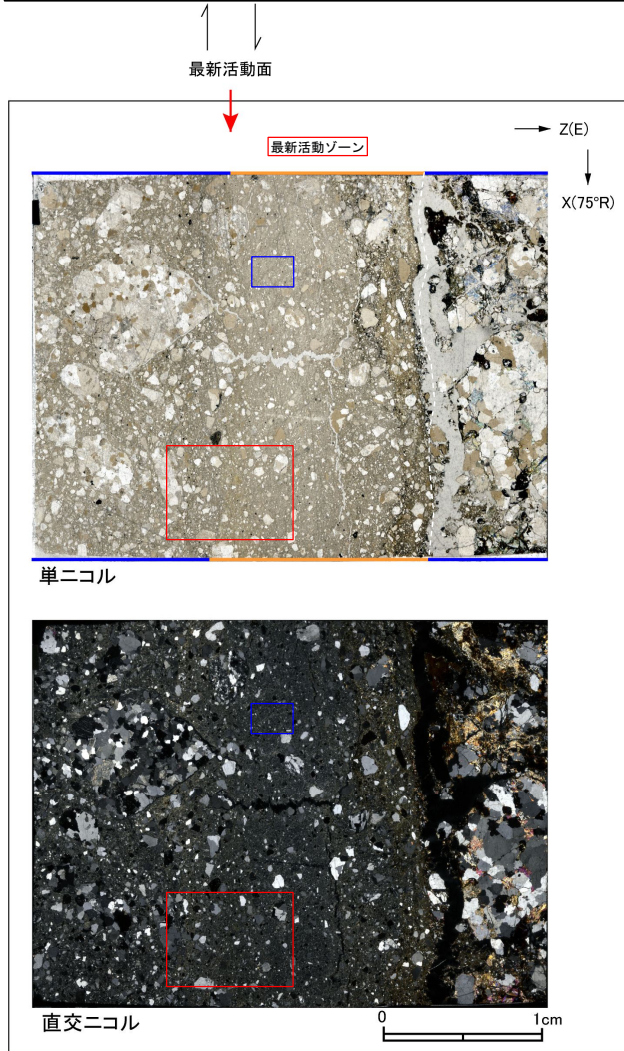


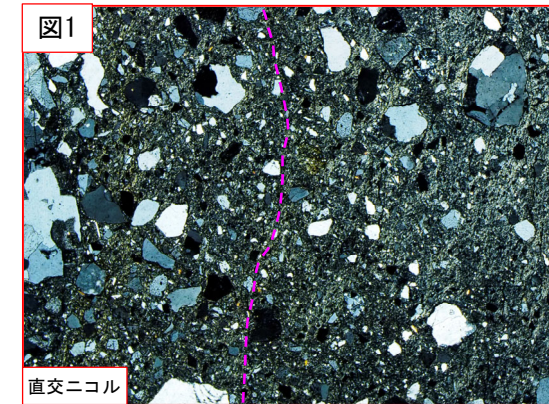
## H24-D1-1 深度53.77~54.54m 非モデル化破砕部 (2/2)

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
  - 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
  - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
  - 岩片は少ない。(図2)
  - 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)

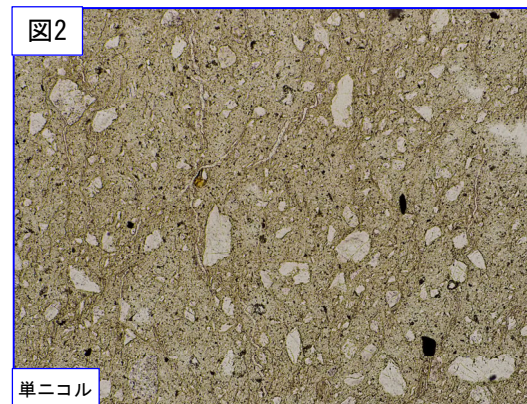


破線は帯状で直線的な範囲を示す。

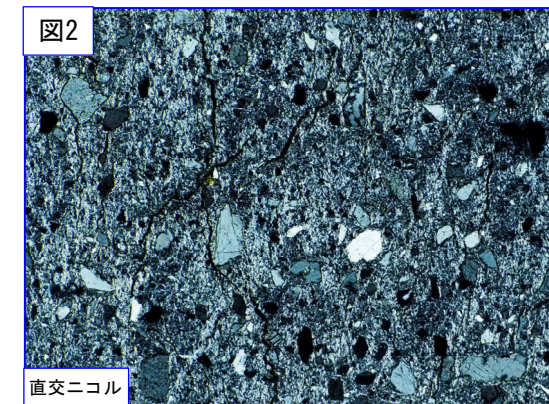
1 mm



1 mm



500 μm



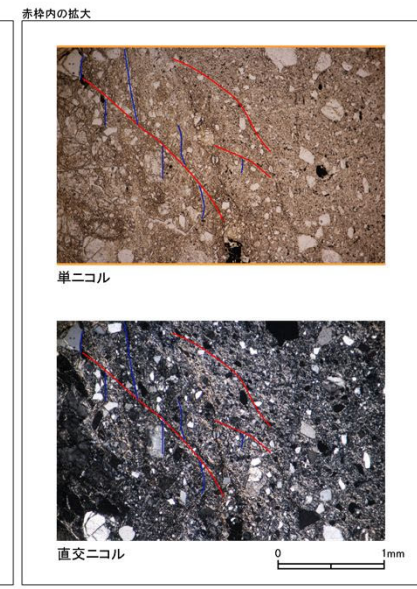
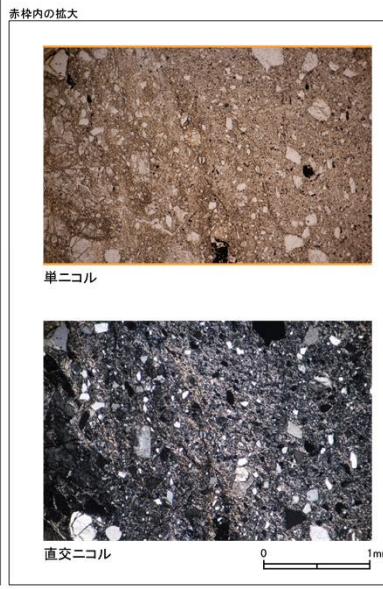
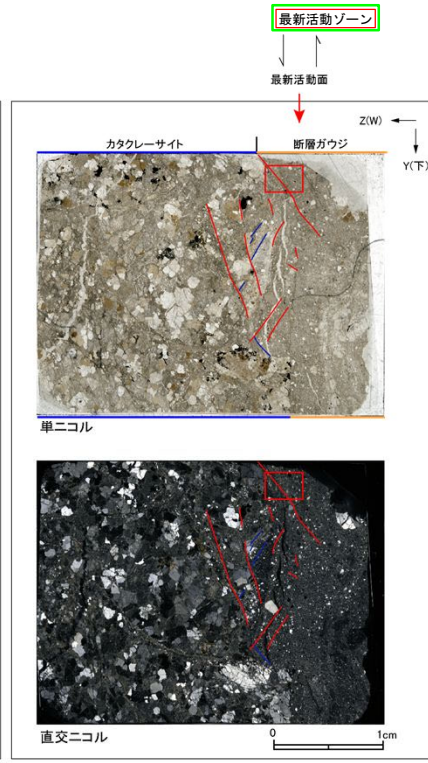
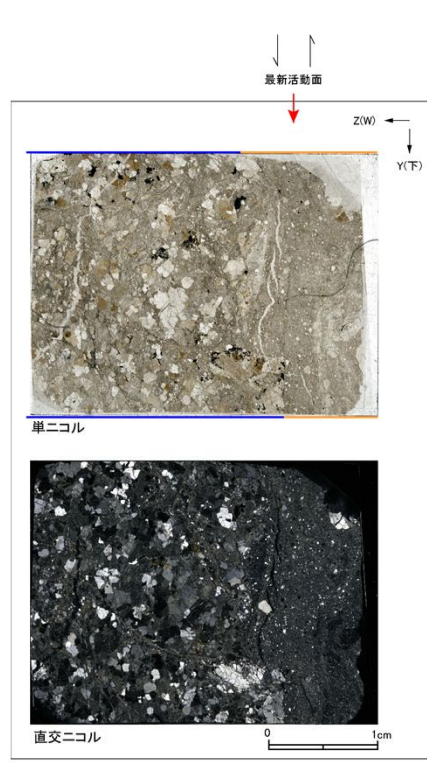
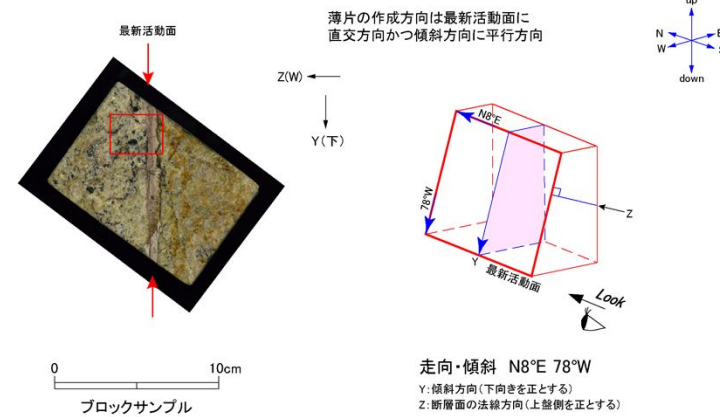
500 μm



# H24-D1-1 深度58.96~59.30m 非モデル化破碎部 (1/2)

- ・H24-D1-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度59.16m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。
- ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破碎部であると判断した。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。

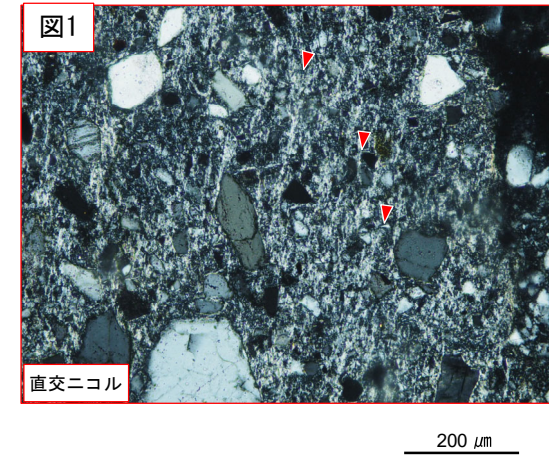
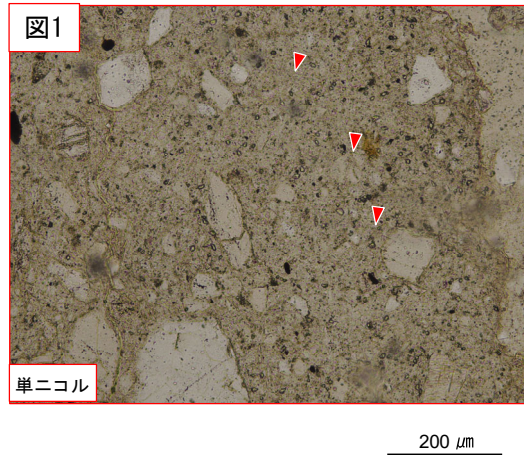
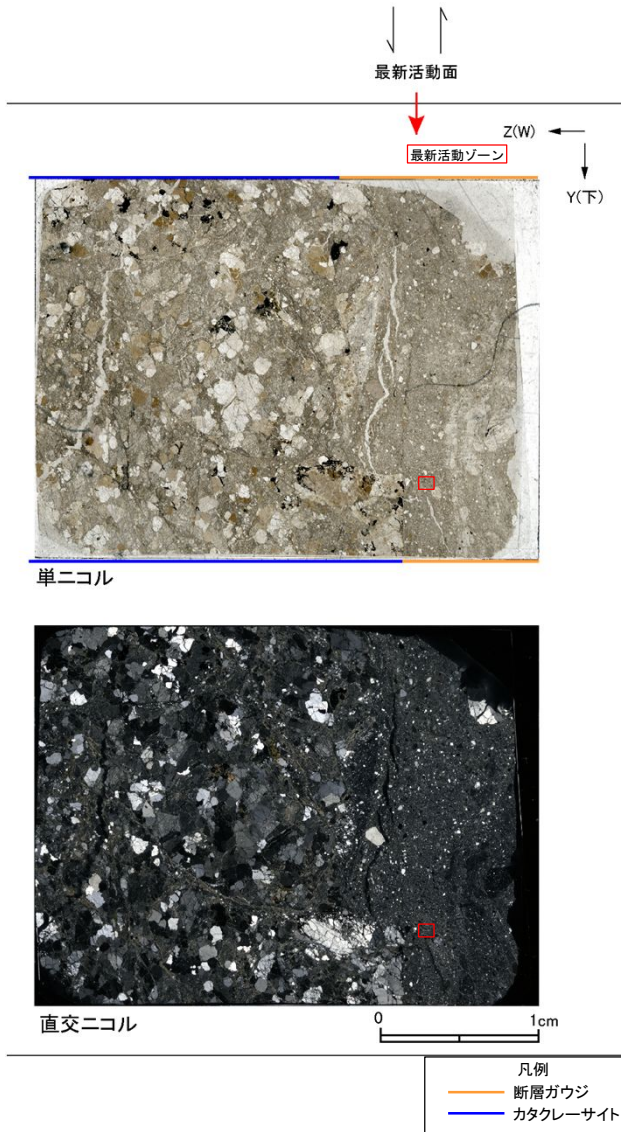
条線データなし



- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト
  - R1面
  - P面

## H24-D1-1 深度58.96～59.30m 非モデル化破碎部 (2/2)

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図1)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図1)
- 岩片は少ない。(図1)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図1)



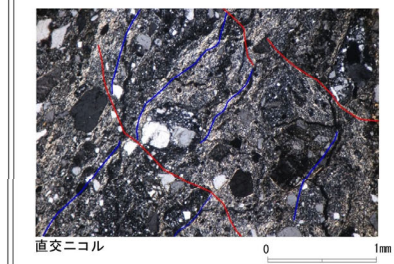
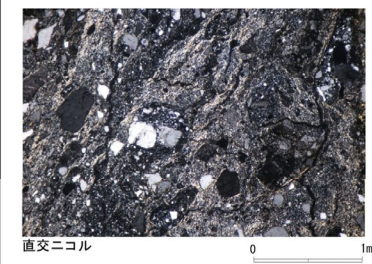
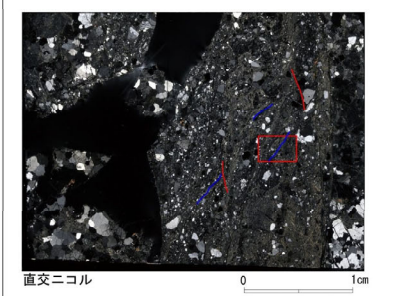
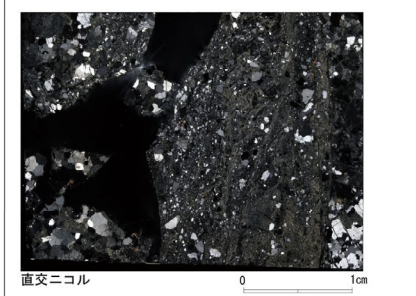
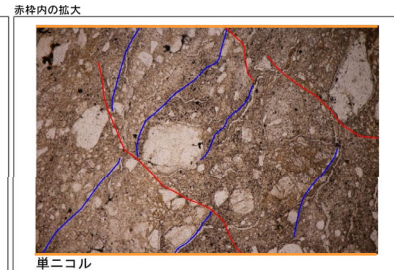
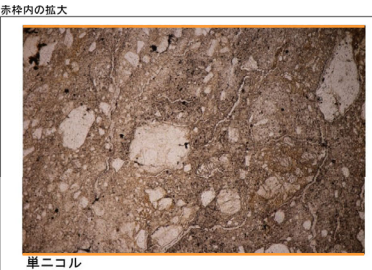
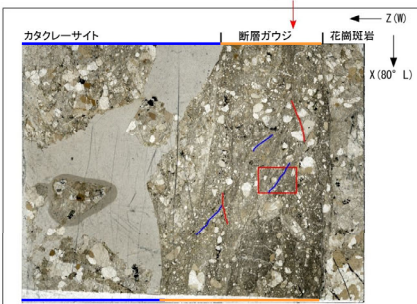
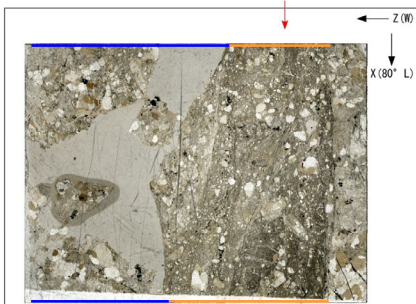
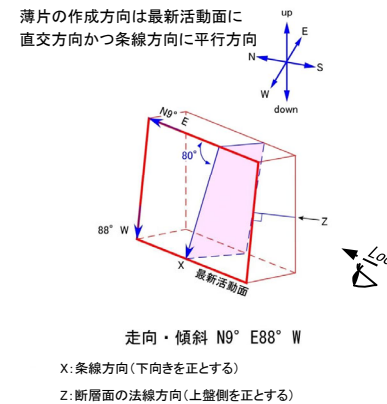
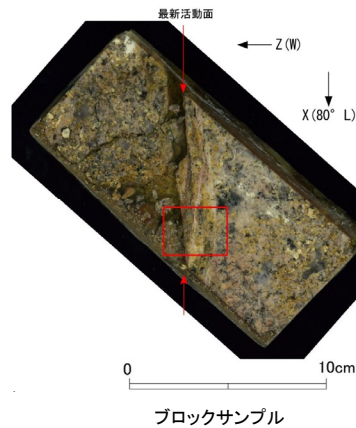
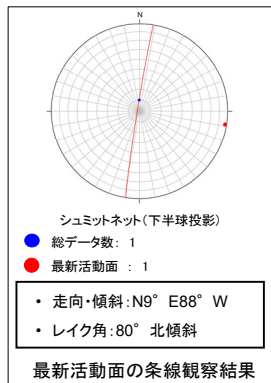
赤矢印の方向は粘土鉱物の配列方向を示す。



# H24-D1-1 深度60.12~60.15m D-1破碎帯 (1/3)

・H24-D1-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度60.12m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。  
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の判断基準に照らして、断層ガウジを伴う破碎部であると判断した。

- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。

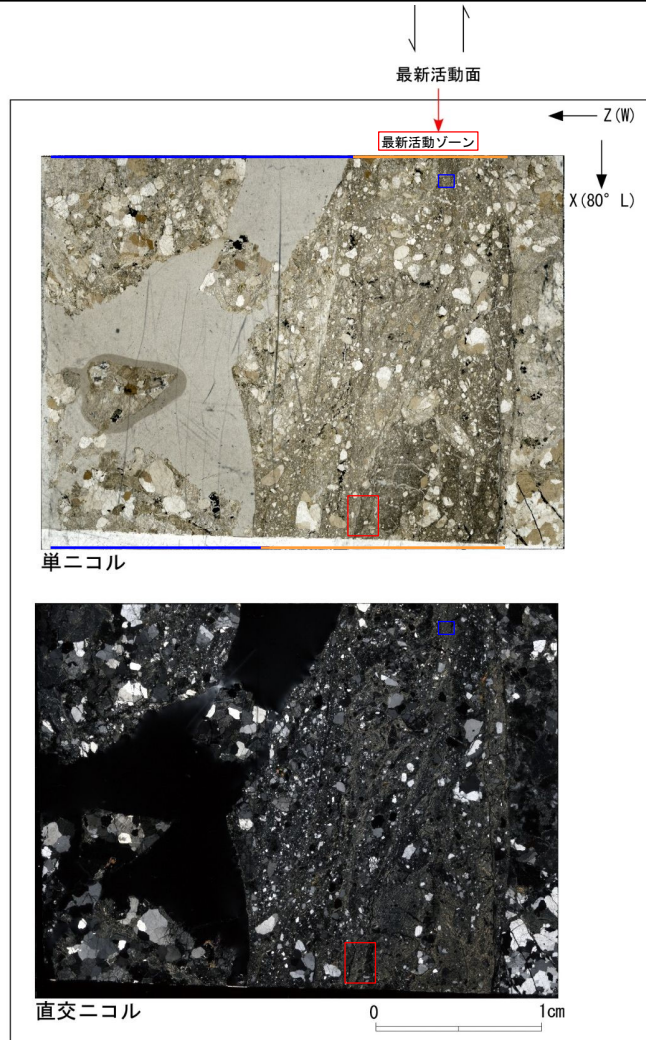


- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト
  - R1面
  - P面

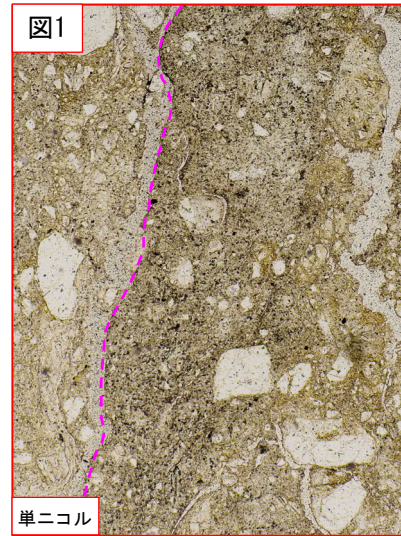


## H24-D1-1 深度60.12~60.15m D-1破碎帯 (2/3)

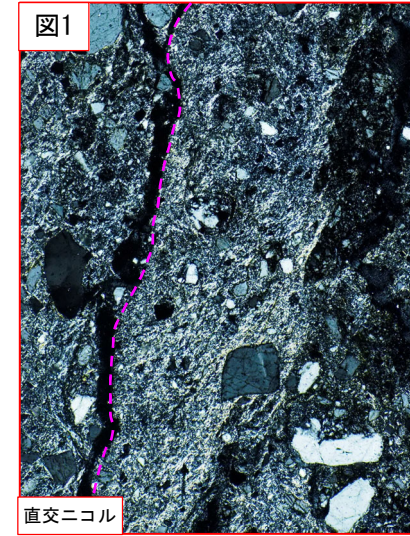
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
  - 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
  - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
  - 岩片は少ない。(図2)
  - 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



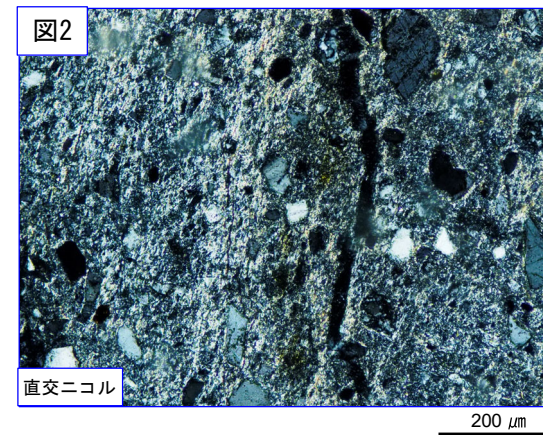
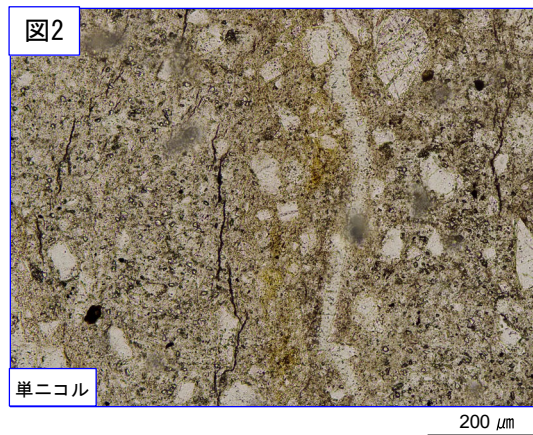
- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト



破線は帯状で直線的な範囲を示す。 500 μm



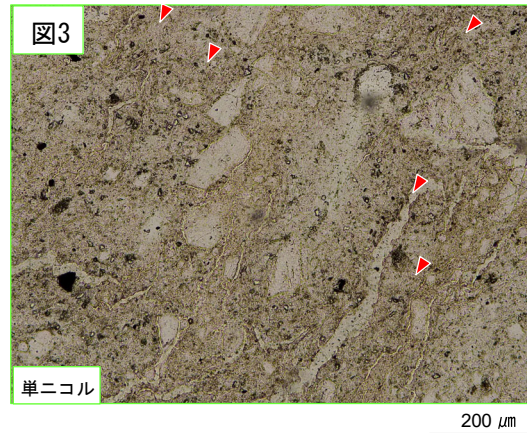
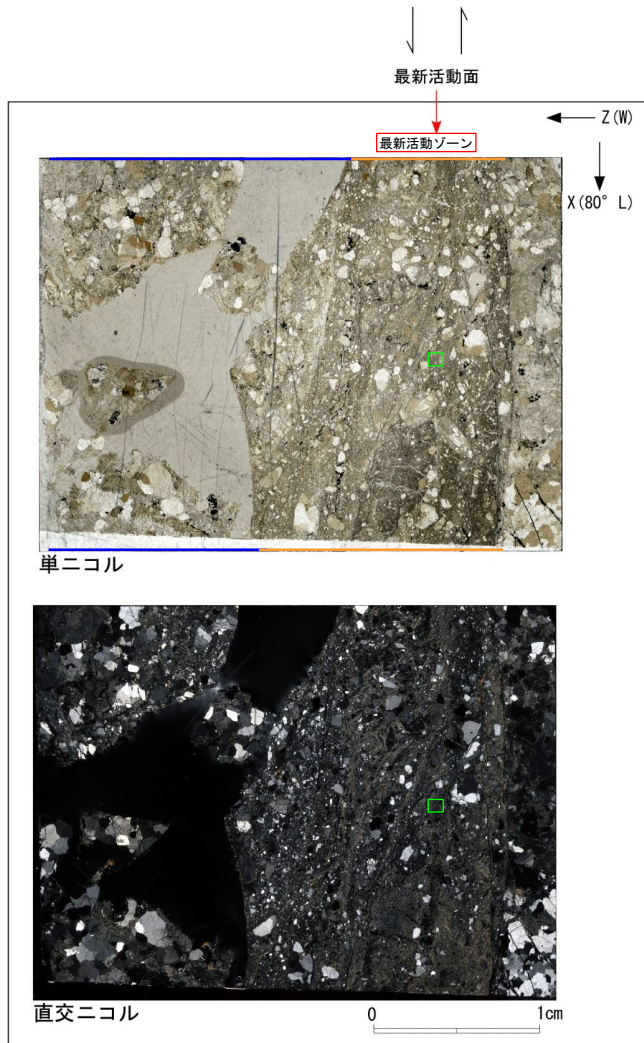
500 μm



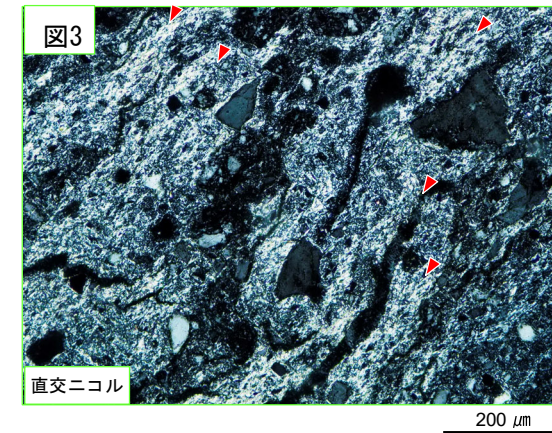


## H24-D1-1 深度60.12~60.15m D-1破碎帯 (3/3)

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図3)



赤矢印の方向は粘土鉱物の配列方向を示す。

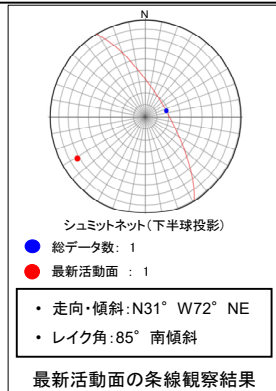




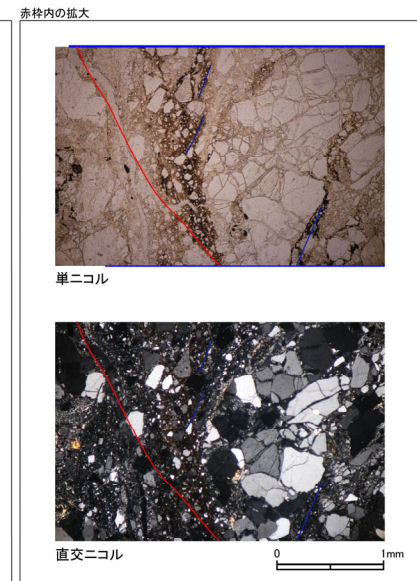
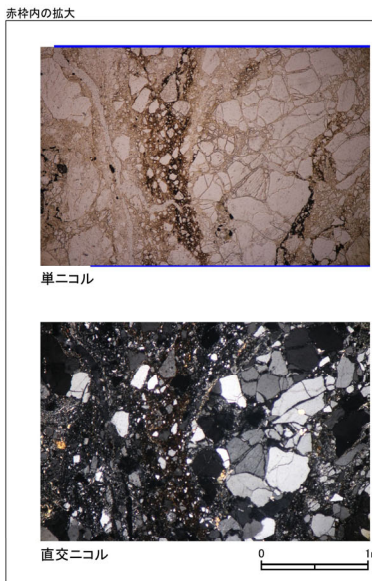
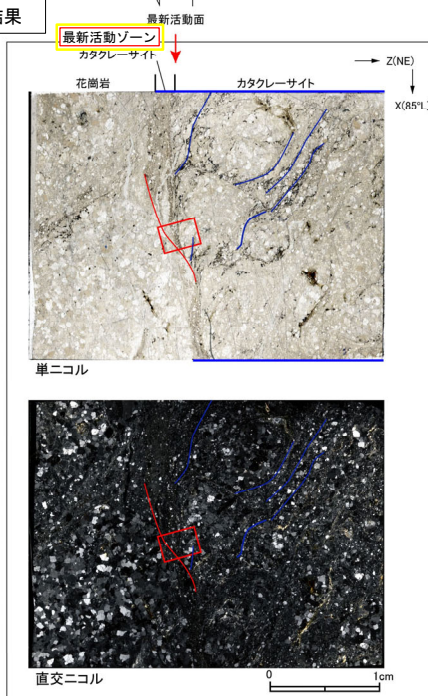
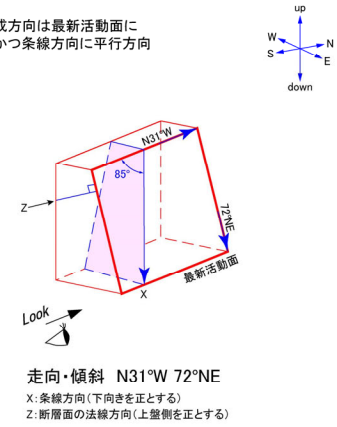
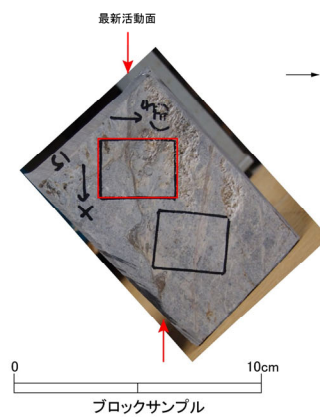
# H24-D1-1 深度68.84~69.00m 非モデル化破碎部 (1/3)

・H24-D1-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度68.93m)の変位センスは、逆断層成分が卓越する。  
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。

- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は連続しない。
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- シグソー状の角礫群が認められる。
- 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。



最新活動面の条線観察結果

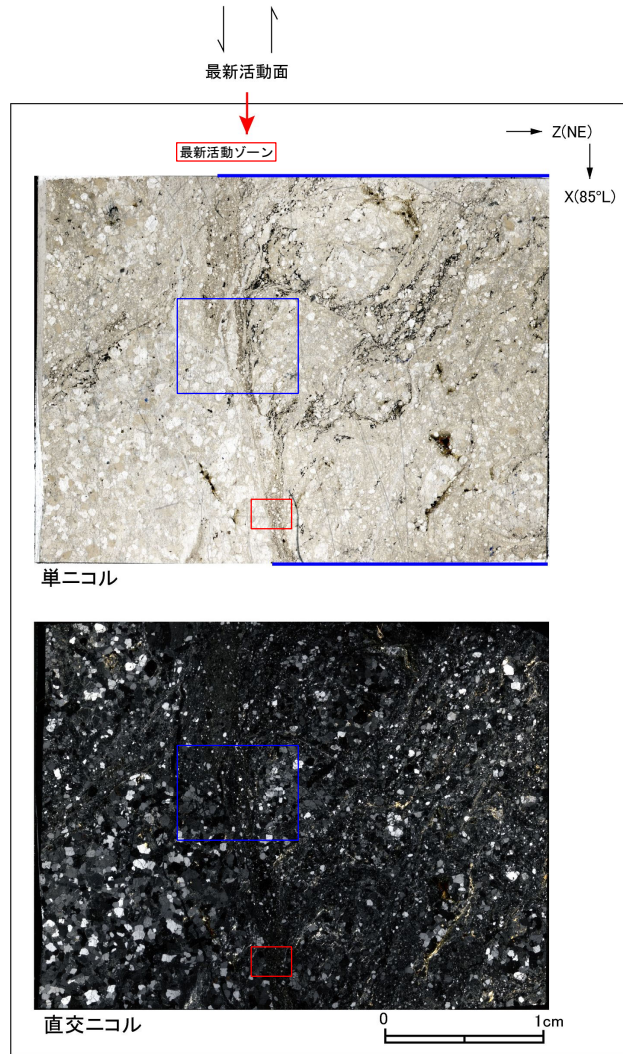


- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト
  - R1面
  - P面

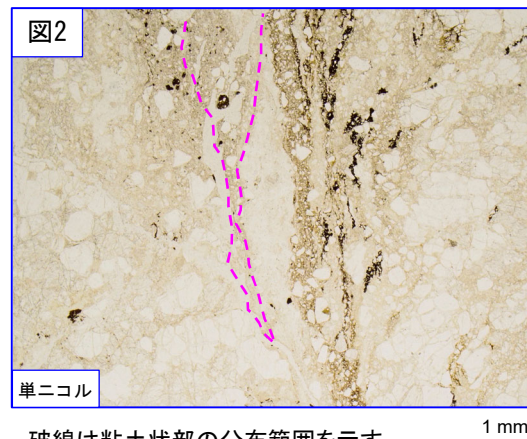
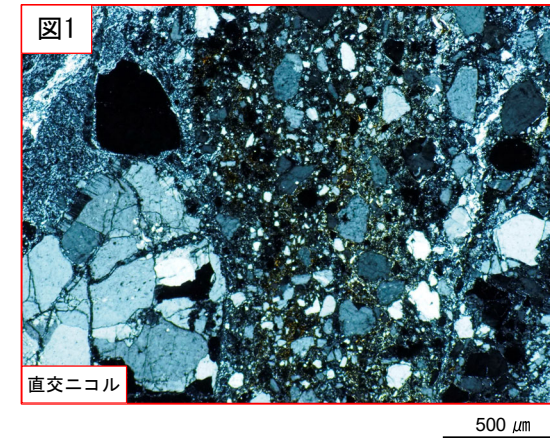
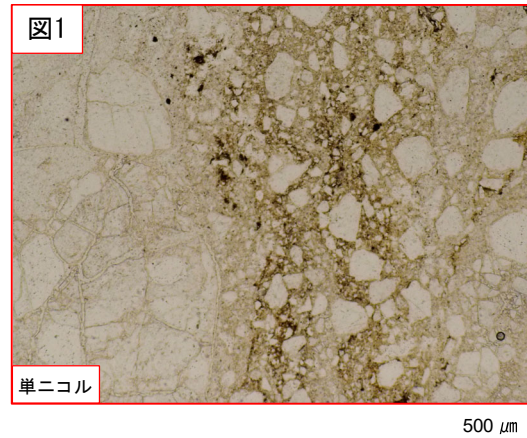


## H24-D1-1 深度68.84~69.00m 非モデル化破碎部 (2/3)

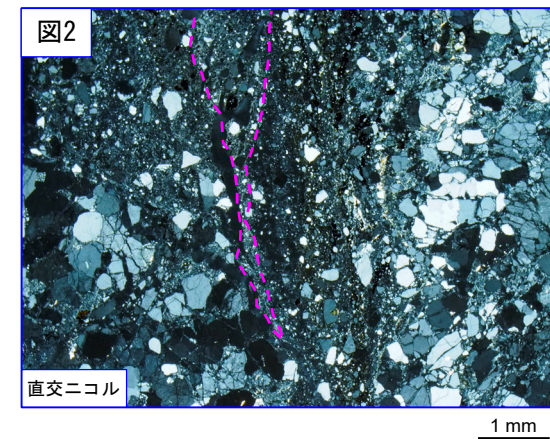
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
  - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1, 2)
  - 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は連続しない。(図2)
  - 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図1)



凡例  
 断層ガウジ  
 カタクレーサイト



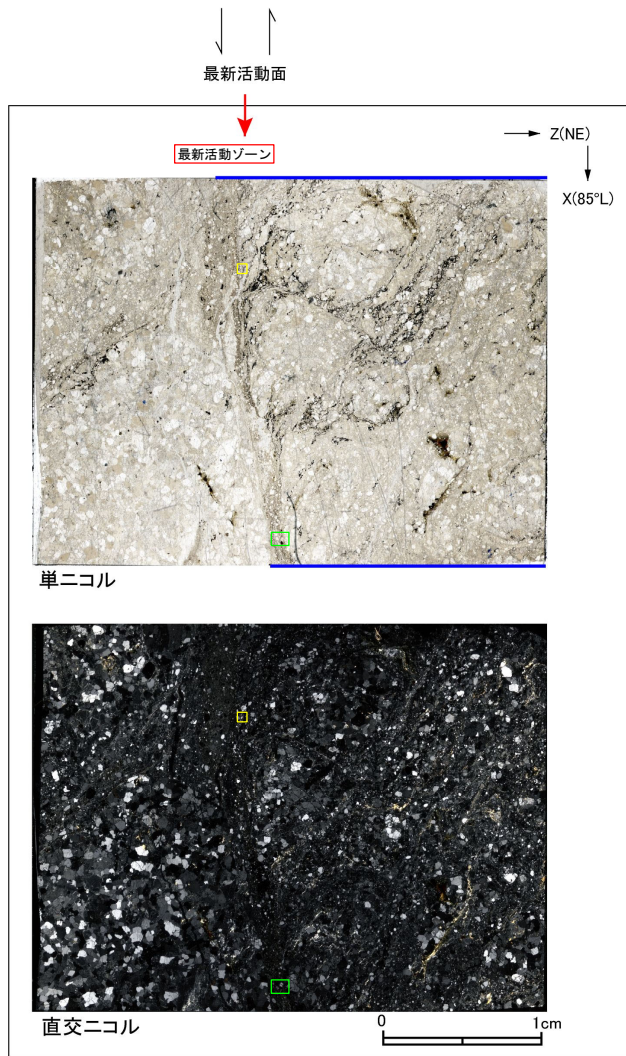
破線は粘土状部の分布範囲を示す。



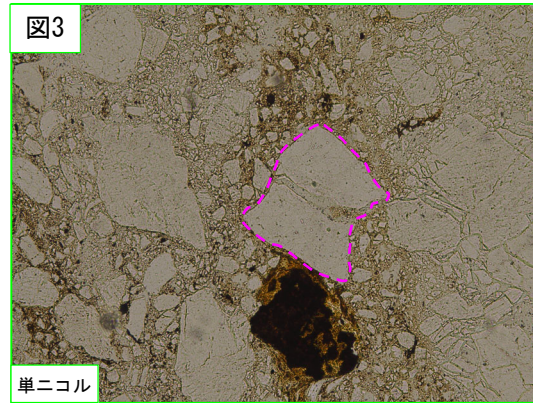


# H24-D1-1 深度68.84~69.00m 非モデル化破碎部 (3/3)

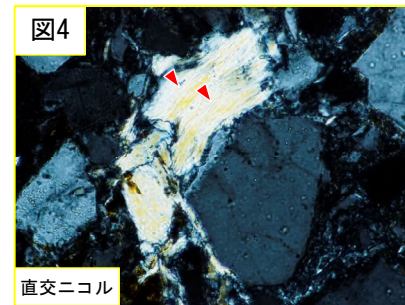
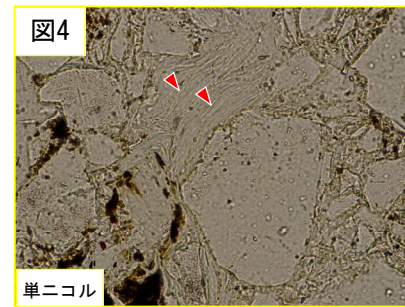
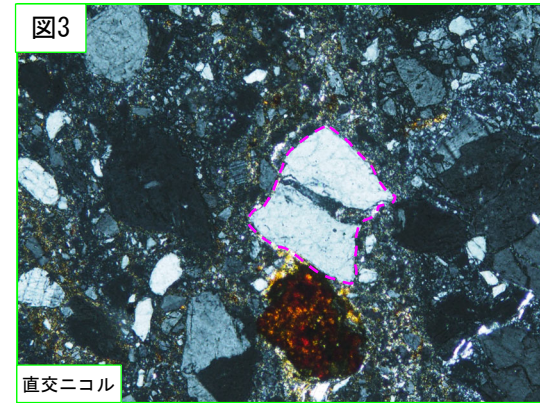
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
  - ジグソー状の角礫群が認められる。(図3)
  - 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。(図4)



凡例  
 — 断層ガウジ  
 — カタクレーサイト



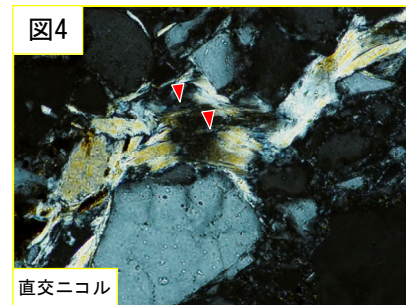
破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。 200 μm



赤矢印は屈曲箇所を示す。 50 μm



ステージを時計回りに約45度回転



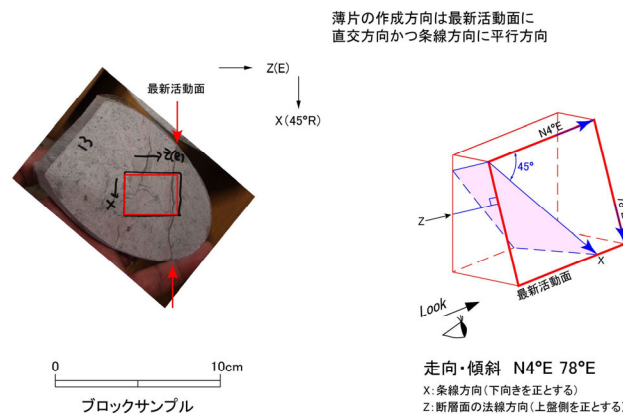
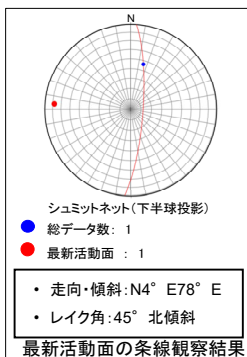
赤矢印は屈曲箇所を示す。 50 μm



# H24-D1-1 深度78.77~79.19m 非モデル化破碎部 (1/2)

・H24-D1-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度79.19m)の変位センスは、右ずれを伴う逆断層である。  
・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。

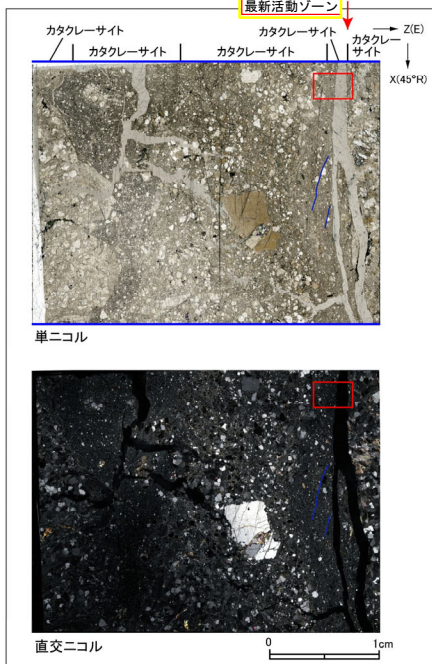
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は局所的である。
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- 角ばった岩片が多い。
- シグソー状の角礫群が認められる。



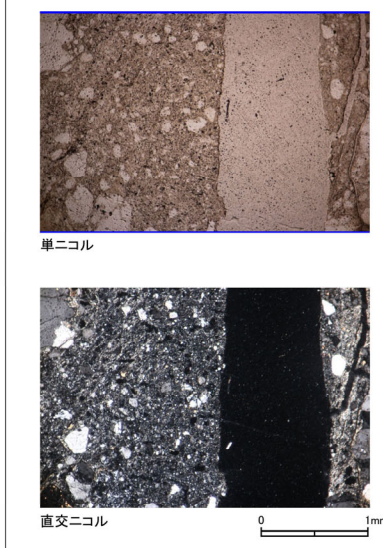
最新活動面

最新活動面

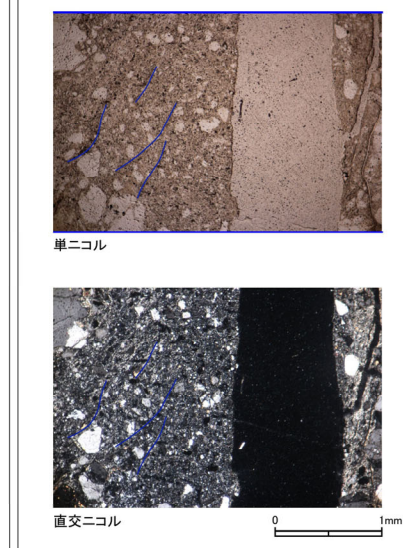
最新活動ゾーン



赤枠内の拡大



赤枠内の拡大

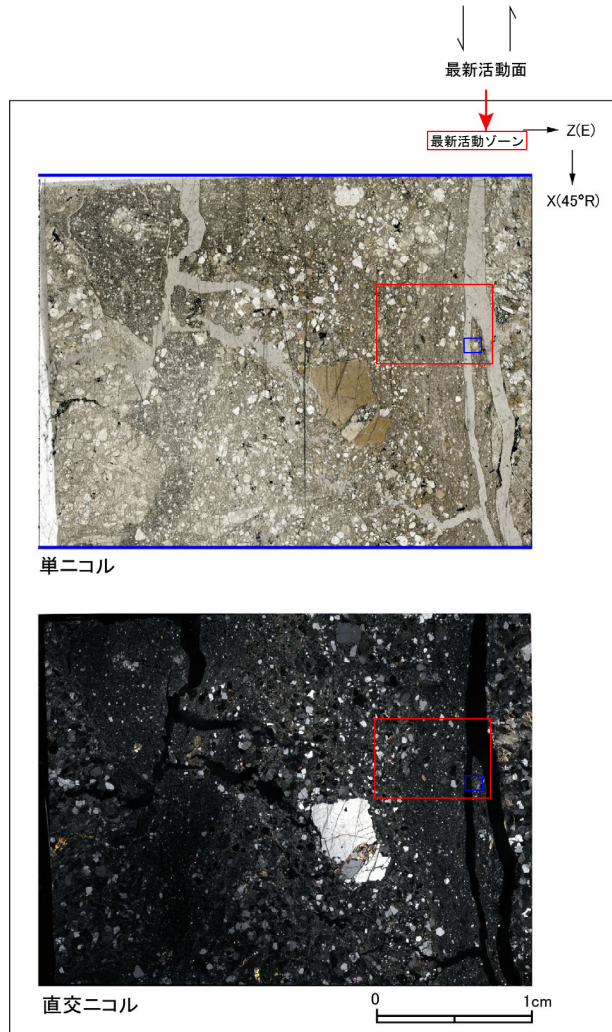


- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト
  - R1面
  - P面

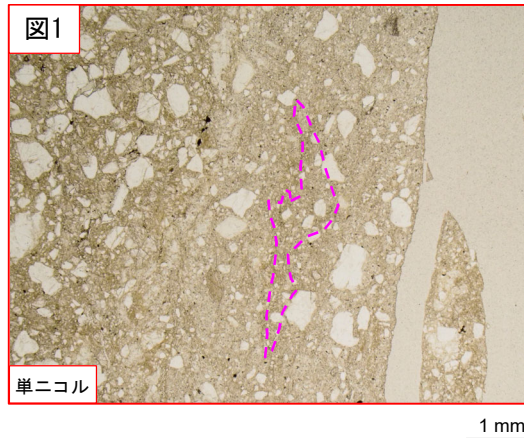


## H24-D1-1 深度78.77~79.19m 非モデル化破砕部 (2/2)

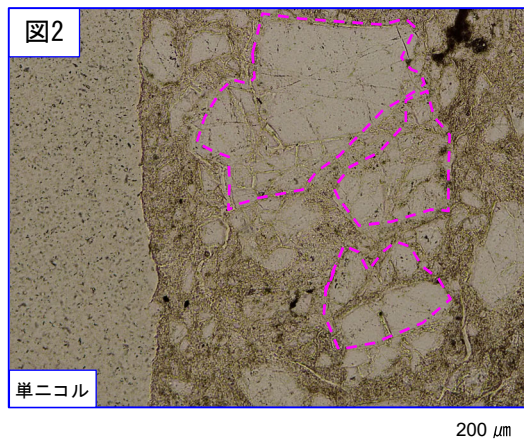
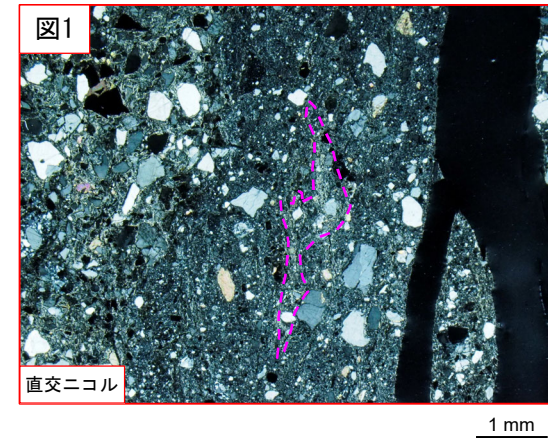
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
  - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
  - 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は局所的である。(図1)
  - 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図1, 2)
  - 角ばった岩片が多い。(図1, 2)
  - ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



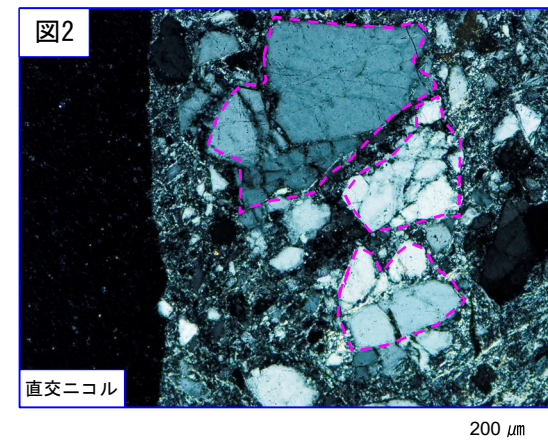
凡例  
 — 断層ガウジ  
 — カタクレーサイト



破線は粘土状部の分布範囲を示す。



破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。

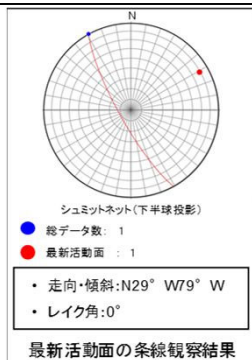




# H24-D1-1 深度81.20~81.42m 非モデル化破砕部 (1/2)

・H24-D1-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度81.30m)の変位センスは、左ずれ成分が卓越する。  
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。

- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- シグソー状の角礫群が認められる。

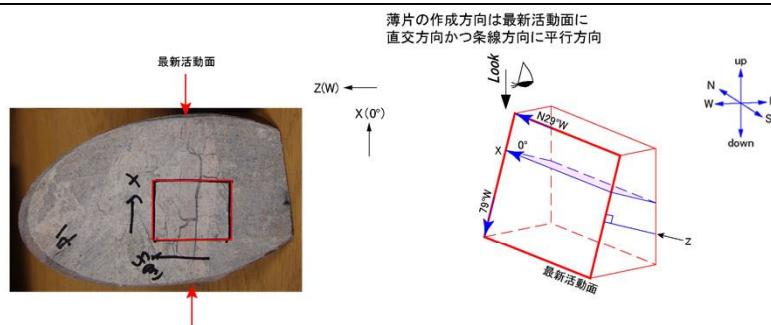


最新活動面

最新活動面の条線観察結果

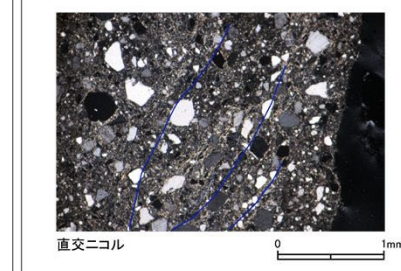
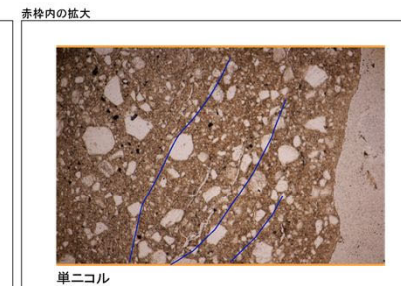
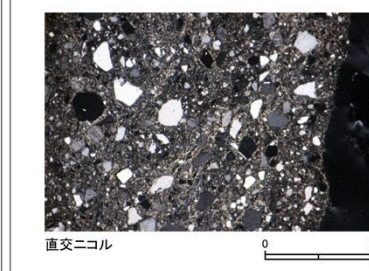
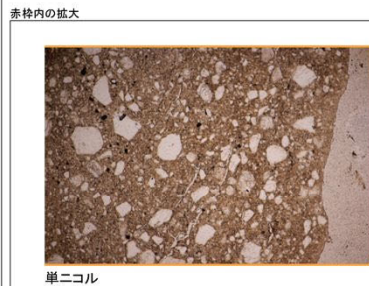
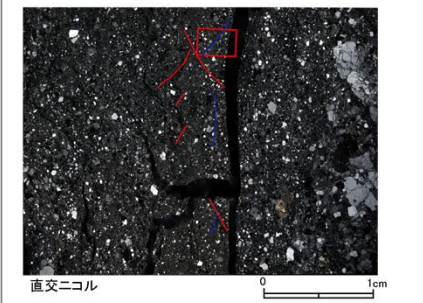
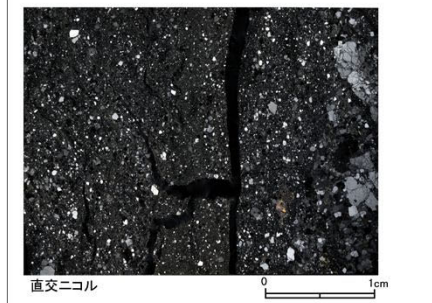
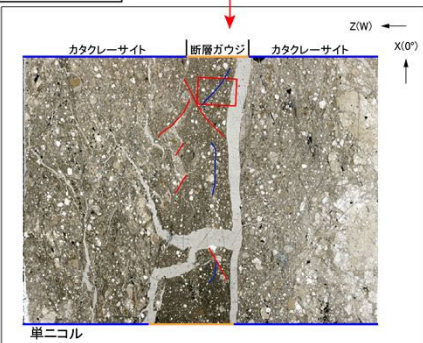
最新活動ゾーン

最新活動面



0 10cm  
ブロックサンプル

走向・傾斜 N29°W 79°W  
 X: 条線方向(北向きを正とする)  
 Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

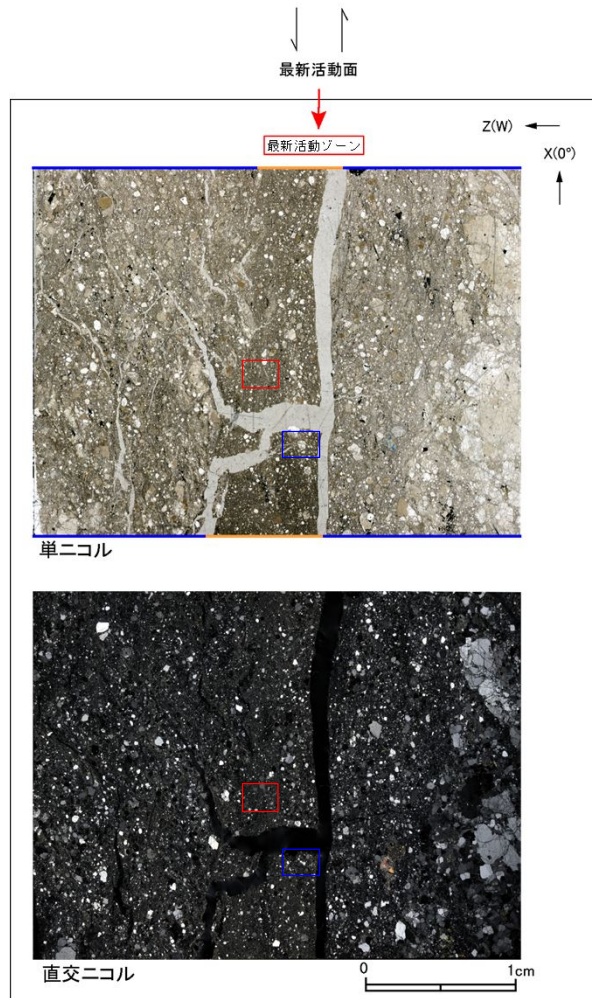


- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト
  - R1面
  - P面

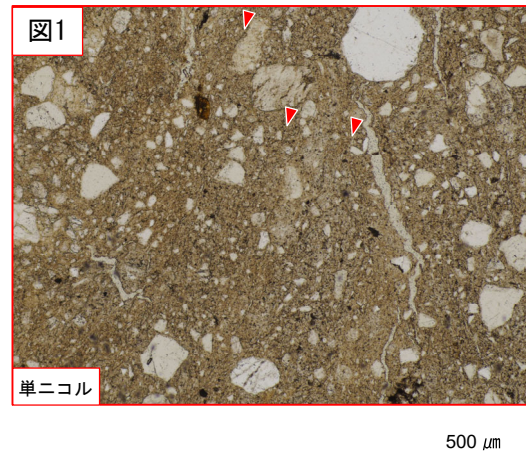


## H24-D1-1 深度81.20~81.42m 非モデル化破碎部 (2/2)

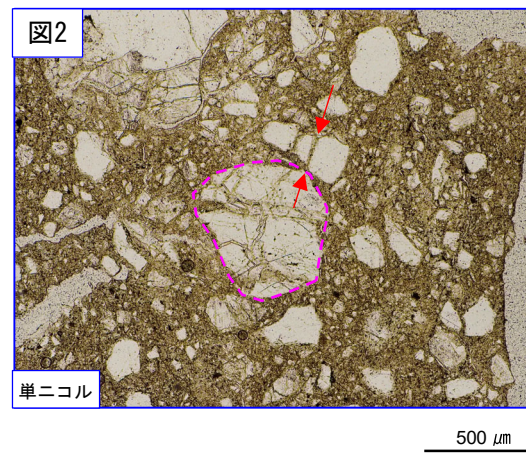
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図1)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図1)
- 岩片は少ない。(図1)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図1)
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図2)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



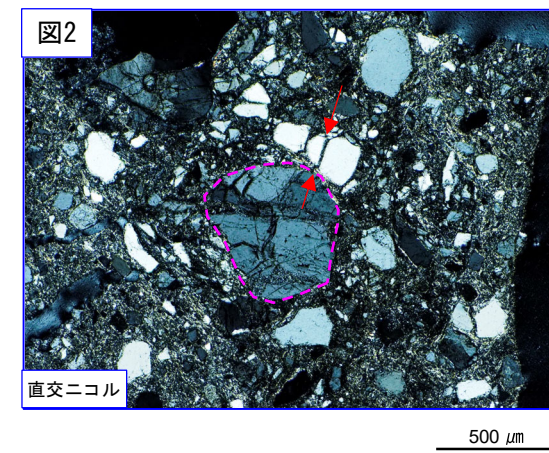
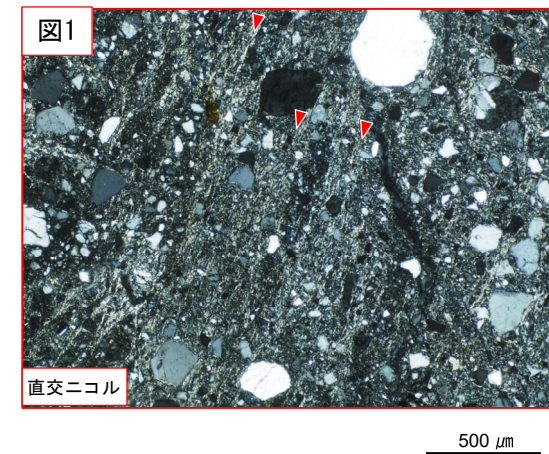
凡例  
 — 断層ガウジ  
 — カタクレーサイト



赤矢印の方向は粘土鉱物の配列方向を示す。



赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。  
 破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。

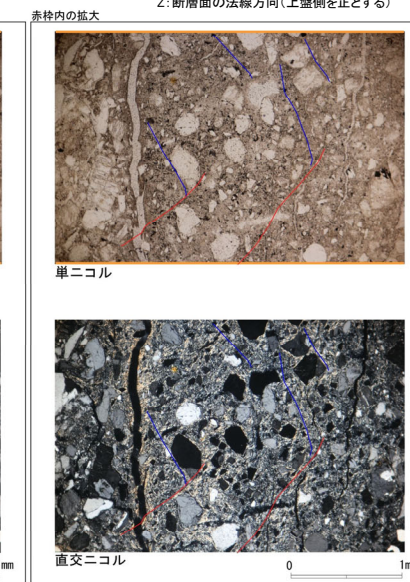
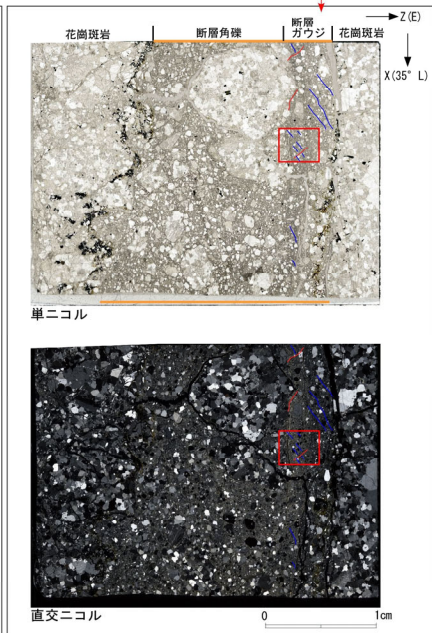
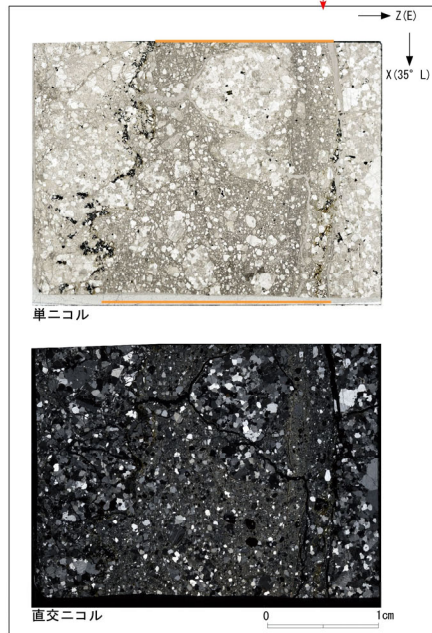
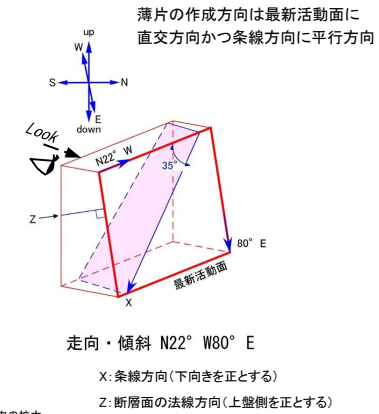
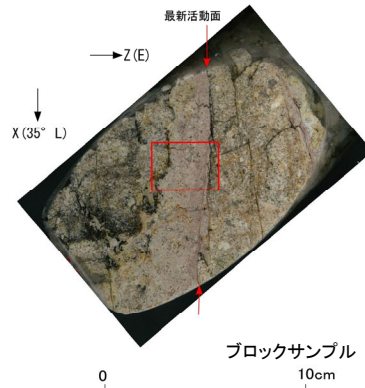
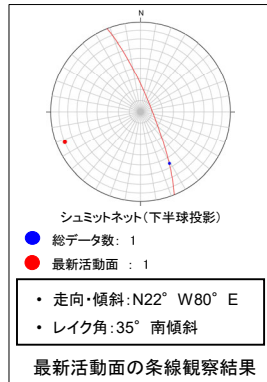




# H24-D1-1 深度89.91~89.95m D-33破砕帯 (1/3)

・H24-D1-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度89.95m)の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。  
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。

- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。

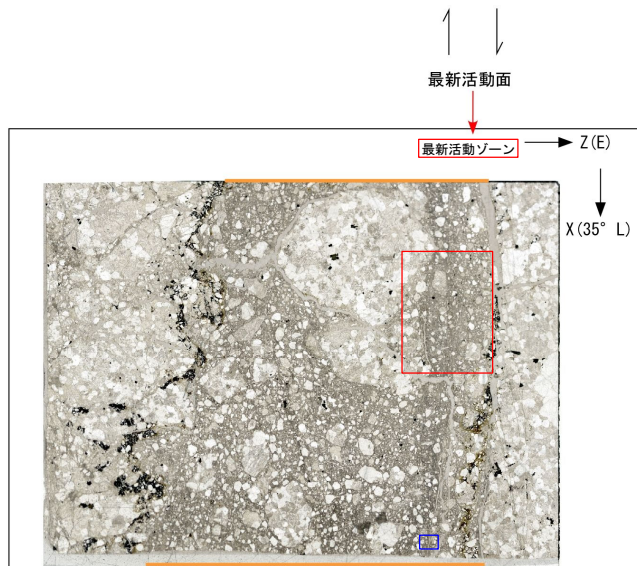


- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト
  - R1面
  - P面

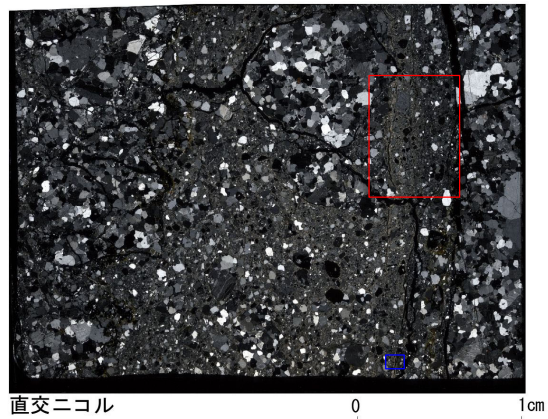


## H24-D1-1 深度89.91~89.95m D-33破碎帯 (2/3)

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)

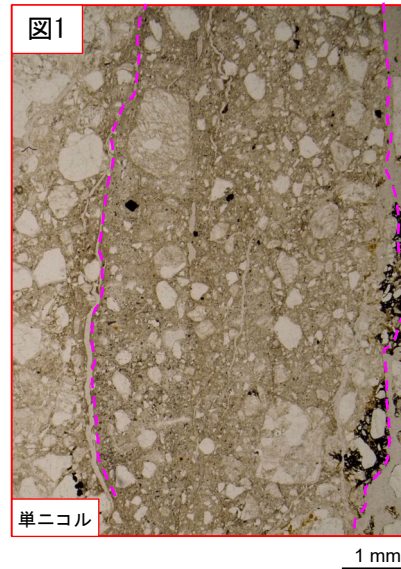


単ニコル



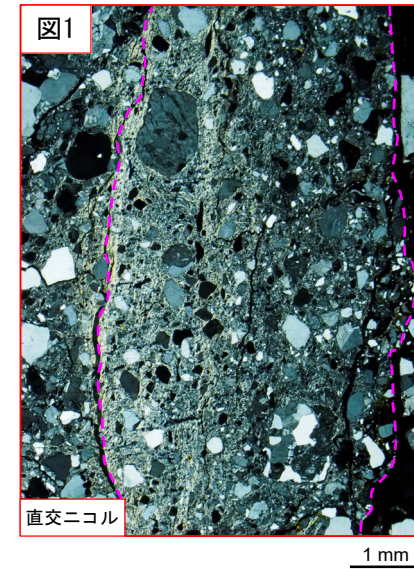
直交ニコル

- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト

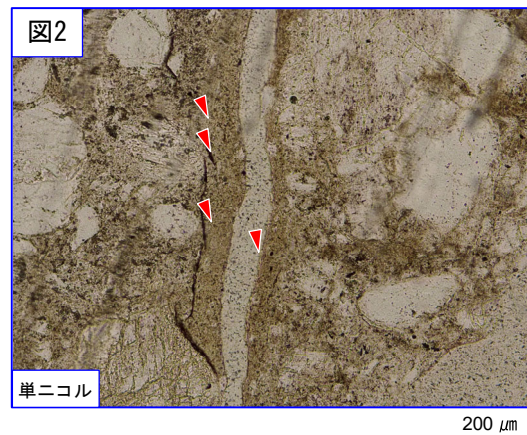


単ニコル

破線は帯状で直線的な範囲を示す。

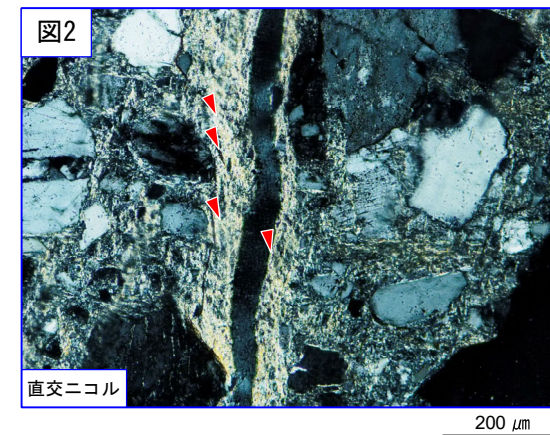


直交ニコル



単ニコル

赤矢印の方向は粘土鉱物の配列方向を示す。



直交ニコル



# H24-D1-1 深度89.91~89.95m D-33破碎帯 (3/3)

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図3)
- 岩片は少ない。(図3)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図3)

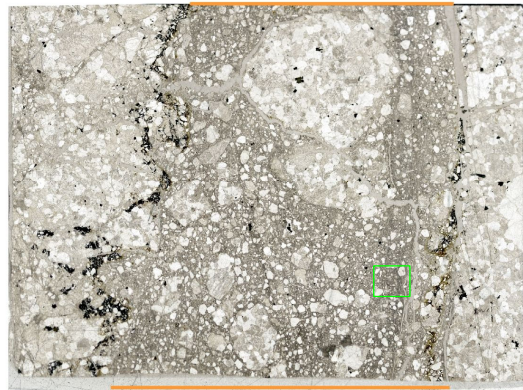


最新活動面

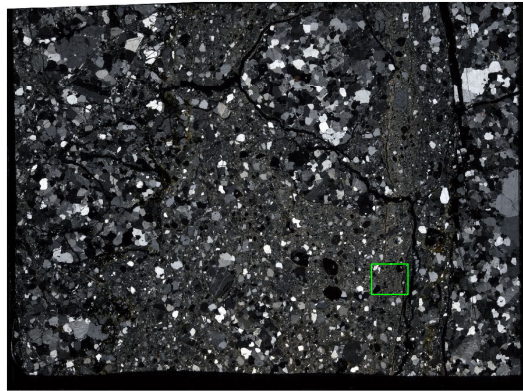
最新活動ゾーン

Z (E)

X (35° L)



単ニコル



直交ニコル

0 1cm

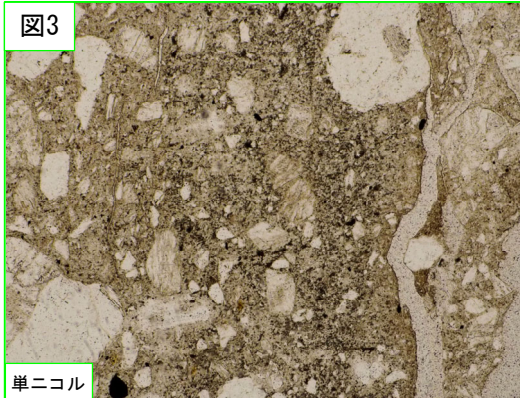


図3

単ニコル

500 μm

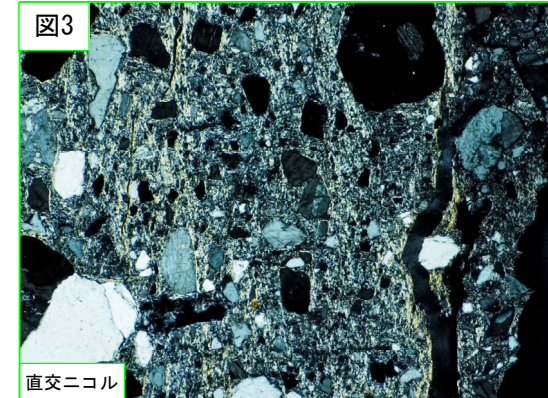


図3

直交ニコル

500 μm

凡例

断層ガウジ

カタクレーサイト



# H24-D1-1 深度90.26~90.84m f-d1-1-10破砕帯 (1/2)

- ・H24-D1-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度90.66m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。
- ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層区区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 岩片は少ない。
- 岩片量は漸移的に変化する。
- 角ばった岩片が多い。

